6-20　実践協力校における授業実践
事例⑳　藤沢市立湘南台中学校

ポイントになる主な学びのプロセス → **・主体的に社会に参画する**
・他者の考えを聞き、自分の考えを再構築する

Ⅰ　単元計画

１．単元名　自立活動「後期の委員会と係を決めよう」

２．単元の目標

①主体的に社会（クラス）に参画する。

②他者の考えを知り、自分の考えを調節することができる。

３．単元の指導計画（４時間扱い）

	（各時における学習の）ねらい（◇）・（具体的な活動を取り入れた）学習内容（◆）
1	◇主体的に社会に参画する。 ◆委員会の仕事内容を把握し、委員会を決める。
2 本時	◇他者の考えを知り、自分の考えを調整することができる。 ◇主体的に社会に参画する。 ・じゃんけん以外の決め方を考えることができる。 ・どういう人がかけもちすればよいか考えることができる。 ◆係の仕事内容を把握し、ひとり１つ係を決める。
3	◇同じ委員会や係になったメンバーと協力して、表を作ることができる。 ◆教室に掲示する委員会と係の表を作成する。
4	◇教室に掲示する委員会と係の表をよりわかりやすいものに仕上げる。 ◆係の表に委員会や係の仕事のイラストをパソコンで見つけ表に貼る。

Ⅱ　本時の指導計画

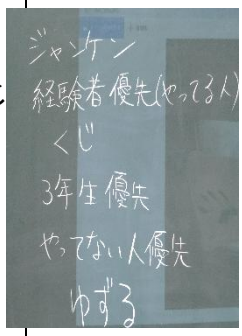
１．本時の目標

学級での係決めのなかで、友達の考えを知り、自分の考えを調整することができる。

「政治的教養を育む教育」で身に付けさせたい力の視点

２．本時の展開

過程	学習活動（活動の流れ）	ポイントになる学びのプロセス
導入	**①係の仕事を確認する。** **後期の学級委員が司会をする。** **前期に自分が担当した係の仕事をクラスのみんなに伝える。** **後期は、木工の係を追加することも伝える。**	司会の原稿を用意する。 自分のできる方法で、係の仕事の紹介をする。
展開	**②取り組みたい係に手をあげる。** ・係の人数を発表する。	**自分から挙手できない生徒がいるので、係の仕事の様子の写真を見せながら聞いていく。**

	・複数の生徒が同じ係を希望した時、どのように決めることがよいかを全体に問い、それぞれの考えを聞く。 くじ、３年生優先または１年生優先などの意見を出す。 また、いつもは、じゃんけんで決めるので、他の方法もしくはゆずる生徒がでてくるように促す。 Ｔ：今日は、じゃんけんじゃない決め方を考えたいんだけど Ｓ：やったことある人が優先できめたらいいんじゃない？ Ｓ：３年生は最後だから、３年生が優先でどう？ Ｓ：でも、それだと１・２年生は、仲のいい友達と一緒に同じ係ができないよ。 Ｓ：どうやって決めるの？　投票する（多数決）のはどう？ Ｔ：「ゆずる」っていう方法もあるよ。 ③係の定数が足りないところについて、どのように決めるかを全体に問い、考えを聞く。 Ｔ：係が決まっていないところはどうする？どうやって決めようか？ Ｓ：委員会やっている人は大変だから、委員会をやっていない人がやるというのはどう？ Ｓ：〇〇さん、今日お休みだよ。どうする？ Ｓ：△△の係やりたいって言ってたよ。 Ｓ：私、給食係と机をふく係をかけもちする。 Ｓ：給食係と机をふく係を同じ人がやるのは難しいんじゃないかな… Ｓ：大変だから、一緒に音楽係やらない？	他者の考えを聞き、自分の考えを再構築する。  主体的にクラスのことに参画する
ま と め	④ 係の表を作成する。 短冊のカードを配付し、カードに係名と自分の名前を記入する。	**目指す子どもの姿** ・他者の考えを聞き、その考えをふまえて建設的に考え、発言することができる。

Ⅲ　政治的教養を育むための支援のポイント

ポイント1

一人ひとりに合った、「自分ができる方法」に挑戦し、発表させるようにしましょう。

学級には、みんなの前で話をすること、字を書くこと・読むことなどに対し少し苦手意識を持っている児童・生徒がいます。学級会などの自分の考えや意見などを表現するときには、児童・生徒の思いを尊重しながら発表する方法を一緒に考えるようにしましょう。情報を受け取る場合の指導・支援の方法も同様です。

例えば、係の仕事を説明するとき、話すことが苦手な児童・生徒は、具体物（使用する道具等）を使いながら実際に動作で見せることで周りの児童・生徒がその様子からその仕事をイメージすることができます。具体物を使用することは、文字に対して苦手意識がある児童・生徒や日本語指導が必要な児童・生徒へ指導・支援する際にも有効な方法です。

日々の児童・生徒の成長の様子をみて、段階的に新しいことに挑戦しながら、自分の考えや意見を表現する方法を増やしていけるように、必要な支援を考え実践していきましょう。

ポイント2

教師の言葉かけの支援で、生徒が参画する発言のきっかけをつくり出しましょう。

生徒にとって、学級集団などの大人数がいる場面で、自分の考えや意見を言うことはとても勇気がいることです。生徒の中には、「言いたいけど、いつ言ったらいいかわからない」ことや、学級会の話の流れを把握することが難しい場合があり、タイミングを逃して表現できないで時間が過ぎてしまうことがあります。

学級会などの話し合いで、一人ひとりの参画が望ましい活動の場合は、事前に生徒から情報を得ることで、当日の活動に生徒が参画することが期待できます。教育活動の計画を把握し、日々の様子から支援が必要な生徒に話しかけ、事前に生徒自身の思いを確認しておきましょう。



実際の学級会で発言できていない様子があれば、「〇〇さん、この間、あの係やりたいって言っていたよね？」と声をかけ、自分の考えや意見を表出できるような場面をつくり、発言や表出を促しましょう。その後は、生徒自身ができる方法で学級全体に伝えられるような支援を行います。自分の考えや意見を表現する経験によって、生徒が自信をもって意思表出できるようになり、他の活動でも生かされていきます。

Ｔ１、Ｔ２など、複数で対応できる場合は、情報を共有し、生徒一人ひとりへの適切な支援（支援方法・支援段階）を確認するとともに、教師間で役割分担を確認しましょう。あわせて、必要な支援を共有し、「生徒自身でできること」を増やし、生徒がもつ力をたくさん引き出すようにしましょう。

Ⅳ　研究協議

１．自評

全学年生徒を対象として、後期の委員会を決める授業を設定した。生徒にとって、委員会は自分のこととして捉えやすいことと、決めるまでの過程の中で、生徒の合意形成が図れる場面があるのではないかと考えた。それぞれの意見が交わされる中で、「ゆずる」という考えを意図的に示し、それぞれの考えや意見に「ゆずる」という考え方から、再構築へとつながるよう指導した。周りの生徒へ配慮する様子も見られるなど、再構築へつながった生徒もいたように感じた。

２．研究協議のテーマ　＊令和３年度は共通テーマで協議を実施。

〇提案授業の生徒の姿から、「小・中学校における政治的教養を育む教育」で大切にしたい学習活動（学びのプロセス）は、効果的に取り入れられていたといえるか…**「ゆずる」という言葉から**

３．研究協議の成果と課題

成果・いろいろな決め方を生徒たちで考えていた場面では、主体的に取り組んで（参画して）いた。「係を決める」というテーマが「自分のこと」として捉えやすく、クラスを「小さな社会」として考えると、社会参画しやすかった内容だった。

・「ゆずる」という言葉を教師が意図的に提示し、生徒たちが自分の考えや意見を再構築できるような手立てが講じられていた。

課題・「なぜ係を決めるのか」や、「どうして『くじ』を選択したのか」などの『理由』を生徒が考えると、自分の考えを再構築することができたのではないか。